

音名と変化記号

音名とは？

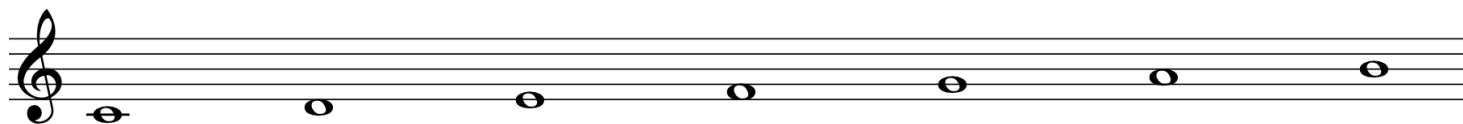
音楽で使われる音の高さに付けられた固有の名称です。

簡単に言えば、お馴染みの「ドレミファソラシド」という音の呼び名のことです。

私たちが普段使っている音名はイタリアの音名で日本音名はクラシック作品の「ハ長調」などで用いられます。

吹奏楽部に入っていた方々はドイツ音名もお馴染みかもしれません。

各国の音名



アメリカ イギリス	C	D	E	F	G	A	B
ドイツ	C	D	E	F	G	A	H
イタリア	Do	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si
日本	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ

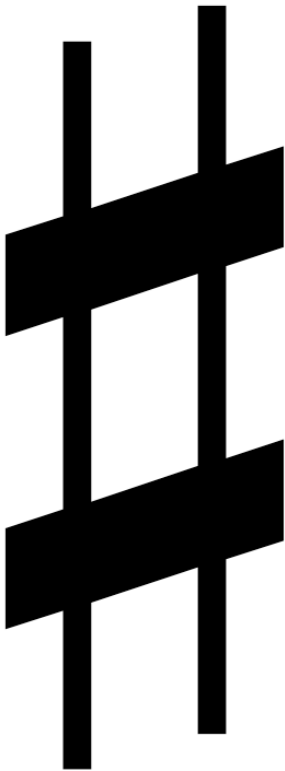
変化記号と派生音名

変化記号は、楽譜に表記された音を高く、あるいは低く変化させる際に使われる記号です。

変化記号が付いていない音のことを「幹音(かんおん)」と呼びます。

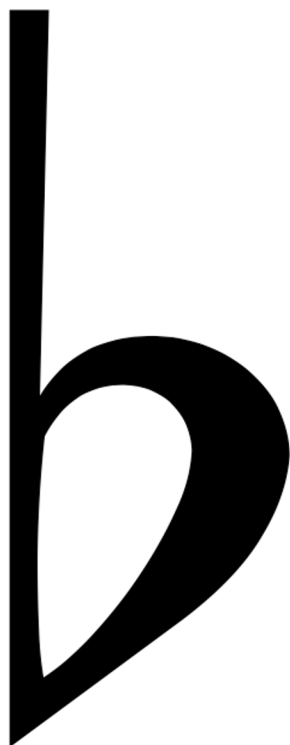
さらに、幹音の音名を「幹音名(かんおんめい)」と呼び変化記号がついた音名は「派生音名(はせいおんめい)」と呼びます。

シャープ (Sharp)



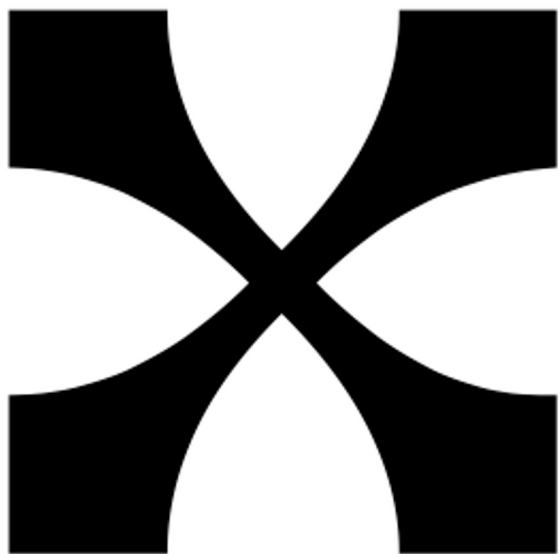
シャープのついた音は
半音高く演奏する。

フラット (Flat)



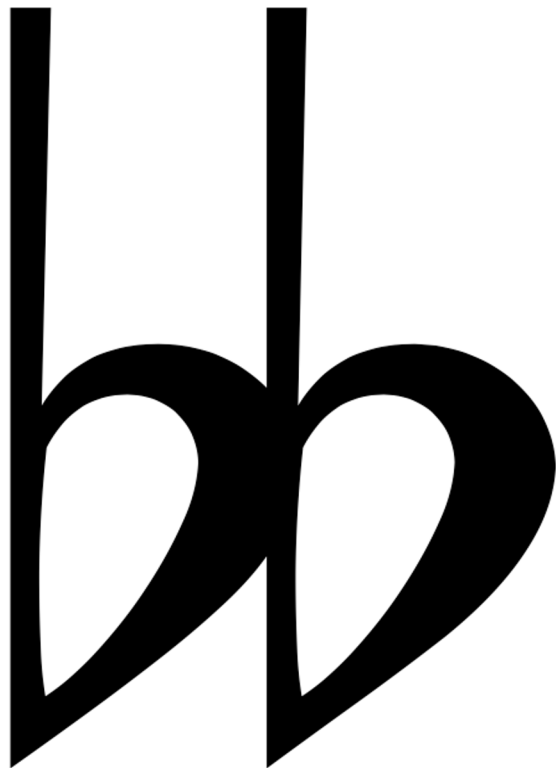
フラットのついた音は
半音低く演奏する。

ダブルシャープ (Double sharp)



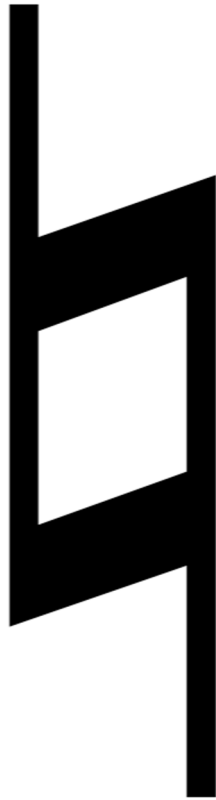
ダブルシャープのついた音は
半音2つ分高く演奏する。

ダブルフラット (Double flat)



ダブルフラットのついた音は
半音2つ分低く演奏する。

ナチュラル(Natural)



ナチュラルのついた音は
変化記号の効果をなくす。

シャープのついた音名



アメリカ イギリス	C sharp	D sharp	E sharp	F sharp	G sharp	A sharp	B sharp
ドイツ	Cis	Dis	Eis	Fis	Gis	Ais	His
イタリア	Do diesis	Re diesis	Mi diesis	Fa diesis	Sol diesis	La diesis	Si diesis
日本	嬰ハ	嬰ニ	嬰ホ	嬰ヘ	嬰ト	嬰イ	嬰口

フラットのついた音名



アメリカ イギリス	C flat	D flat	E flat	F flat	G flat	A flat	B flat
ドイツ	Ces	Des	Es	Fes	Ges	As	B
イタリア	Do bemolle	Re bemolle	Mi bemolle	Fa bemolle	Sol bemolle	La bemolle	Si bemolle
日本	変ハ	変ニ	変ホ	変ヘ	変ト	変イ	変ロ

ダブルシャープのついた音名



アメリカ イギリス	C double sharp	D double sharp	E double sharp	F double sharp	G double sharp	A double sharp	B double sharp
ドイツ	Cisis	Disis	Eisis	Fisis	Gisis	Aisis	Hisis
イタリア	Do doppio diesis	Re doppio diesis	Mi doppio diesis	Fa doppio diesis	Sol doppio diesis	La doppio diesis	Si doppio diesis
日本	嬰重ハ	重嬰ニ	重嬰ホ	重嬰ヘ	重嬰ト	重嬰イ	重嬰口

ダブルフラットのついた音名



アメリカ イギリス	C double flat	D double flat	E double flat	F double flat	G double flat	A double flat	B double flat
ドイツ	Ceses	Deses	Eses	Feses	Geses	Ases (Asas)	BB (Bes)
イタリア	Do doppio bemolle	Re doppio bemolle	Mi doppio bemolle	Fa doppio bemolle	Sol doppio bemolle	La doppio bemolle	Si doppio bemolle
日本	重変ハ	重変ニ	重変ホ	重変ヘ	重変ト	重変イ	重変ロ

変化記号の使い方とそのルール

変化記号は、以下の2つのために使われます。

- 臨時記号
- 調号

臨時記号

音符の左側に表記され
一時的に変化させる記号。

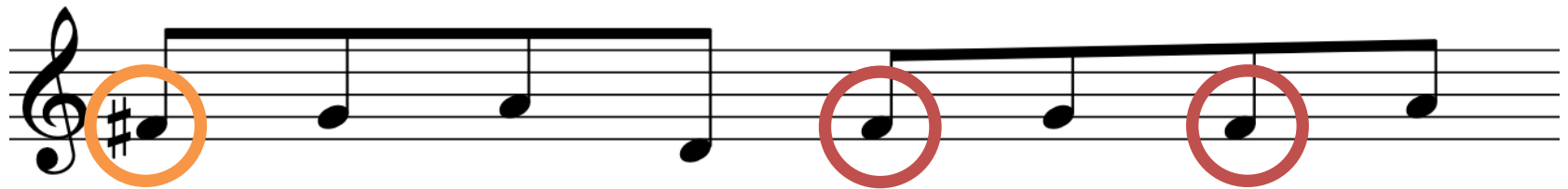


臨時記号のルール

- 小節内は変化が継続する
- オクターブをまたいだ音は変化しない
- タイでつながった音まで変化が継続する
- 音部記号が変化しても同じ音なら変化は継続する
- 小節内で2回以上つけられても、変化は重複しない

小節内は変化が継続する

臨時記号がついた音は
同一小節内に限り変化が継続する。



この譜例では、臨時記号のない
○の音も、シャープが適応される。

オクターブをまたいだ音は変化しない

同一小節内であっても
オクターブが違う場合、変化は適応されない。



この譜例では、オクターブの違う
○の音は、幹音で演奏される。

あえてナチュラルを付加する場合もある

より読みやすい楽譜として
あえてナチュラルを表記することもある。



この譜例では、オクターブ違い、次小節など
変化しない音はナチュラルが付加してある。

タイでつながった音まで変化が継続する

小節が変わっても
タイでつながっている音符まで、変化が継続する。



この譜例では、次小節の
○の音まで、変化が継続する。

音部記号が変化しても同じ音なら変化は継続する

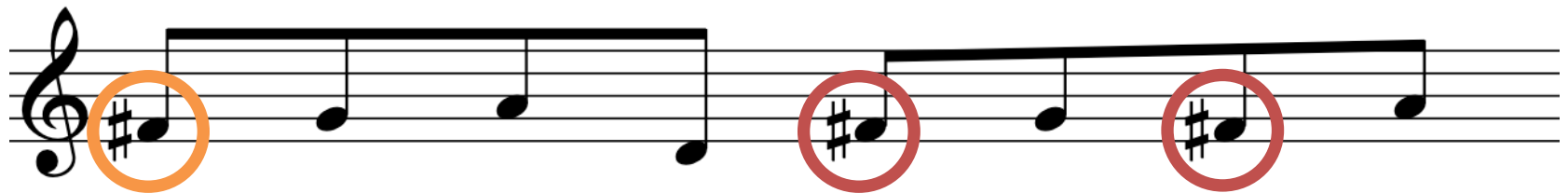
同一小節内で音部記号が変化しても
同じ音高であれば臨時記号の変化が継続する。



この譜例では、音部記号変化後の
○の音は、同じC3なので変化が継続する。

小節内で2回以上つけられても、変化は重複しない

同一小節内で複数回、臨時記号がついても
重複せず、一番最後の変化記号のみ有効となる。



この譜例では
○の音は、全てF#の音で演奏する。

調号

音部記号の右側に表記される。
その段、全てを変化させる記号



オクターブをまたいだ音にも変化は有効

臨時記号と違い
オクターブの違う音高も全て変化する。



この譜例では、オクターブ関係なく
○の音は、シャープの変化を受ける。